

OASIS の風

-hear your heart-

ナーシングホーム OASIS 藤が丘



R4年 3月号

入居者様の声

K・E 様 : 80 代女性 : ALS

ナーシングホーム OASIS 藤が丘入居中 : 電子メモパッドを使用しての筆談

K 様はお身体を自由に動かせる時からスマホやタブレットをご使用されていましたが、全身の筋力低下に伴い、腕を持ち上げてタブレットを操作するのが難しくなられました。スマホではご家族様とメールのやり取り、タブレットではゲームをされておりました。コミュニケーション支援としての介入依頼があり、①ベッドに寝たままでもタブレットの画面が見られるように固定、②指の力だけで操作できるようにトラックボールマウスの導入、③文字入力ができるようにフリック式→50音へのキーボード変更を行いました。

(以下、筆談にて本人へ聞き取り)

Q. トラックボールマウスを使用してみてもいかがでしたか？

A. 使いやすかった。

Q. 積極的に使用されていないように見受けられますが、理由はありますか？

A. 手が衰えて苦しい。体調の良い時は使ってみたい。

現在は、調子の良い時はトラックボールマウスを用いてタブレットでゲームを楽しんでいます。ご家族様とメールがしたいとのご希望があるので、今後はコミュニケーション手段としての支援も行っていきたいと思っております。



スタッフの声

M・R さん : 訪問看護師 : ナースコール藤が丘 : 2 カ月

これまで、多くの利用者の方々と関わっていく中でコミュニケーションの大切さを学ぶと同時に、コミュニケーションを支援する難しさや様々な課題があることを実感しました。難病の方では寝たきり状態や人工呼吸器を使用されている状態でも意識が清明な方が多く、文字盤や筆談、意思伝達装置等のツールを使用し、ご要望を聴取するには時間を要します。また医療依存度も高く、コミュニケーション以外の面でもケアや医療処置が多い中、訪問看護・訪問介護ともに限られた時間の中で十分なコミュニケーションを取ることが難しいと実感しており、悩みであり課題です。

最適なコミュニケーション方法を模索する事も大切ですが、何より利用者の方と同じ目線で向き合い、寄り添う気持ちを大切に、より良い関係性を築いていきたいと思っております。



トピックス

第3回 リモート交流会

2022年2月9日に、第3回目となるオンラインでの難病患者交流会を開催いたしました。今回は愛知県だけでなく京都府からのご参加もありましたので、「ご当地クイズ大会」で盛り上がりました。次回は9月14日に第4回目を企画しており、より多くの方にご参加いただく予定です。

